

---

## 金 田 憲 治

議長（村松 積） 3番、金田憲治君、質問を許します。登壇願います。

3番（金田 憲治） 3番、金田憲治です。

通告に基づきまして、3つの質問をし、村長の方針等をお聞きしたいと思います。が、1番目の予算関係につきましては、村長のあいさつの中でかなり触れられておりますので、私はこの中で、国や県のその税収入が非常に予算を下回るという報道がされております。そういう中で、下條のその税収の関係が、各企業非常に大変な状況になってまいりましたので、これがどのような状況になってくるかお聞きをしたいと思います。

次に、2点目の里山整備についてお伺いいたします。

最近、本村の国道151号線沿いの支障木、それから竹林、こういうようなものが伐採されまして、この地方で言われております「垢抜けた」という言葉がありますけれども、こんなような状況に非常になってきて、大変喜ばしくさらに率先してこれを進めていかれることをお願いをしたいというように望むものでございます。

去る11月18日、森林税事業のその導入に伴う森林整備のその説明会がありました。私も土地所有者として出席をしたところでございます。

説明の概要ですけれども、地籍は北又、山田河内、合原の一部分で、約14ヘクタール、それで43人の所有している森林、そこを整備するというものであります。

事業内容は、今年4月スタートした森林税を活用し、間伐主体の整備であると。

それから補助については、従来からある造林補助金で7割、森林税で2割、残った1割についても村で70%の補助があると、こういう事業で、自己負担は3%と、金額にして1反歩当たり1,500円から3千円程度その負担でこの整備できるという、そういう事業であるということの説明がありました。

間伐することによりまして、これ自然災害の防止、また現在農家を非常に困らしている鳥獣害対策、こういうものにも有効である。それとともに、垢抜けた山というんでしょうか、景観的にも優れたそういうようなものができていく。大きな効果が期待できる事業である。こういうように思います。

事業推進には、一定のまとまったエリアの森林を整備することにより、効果がある、こういうようにとのそのことだったんですが、多くの所有者が関係して、理解を得ることが

大きな課題であるというように思っております。

そこで村が森林組合とタイアップし、積極的に働きかけていただきまして、事業実施までこぎ着けてと願うものですが、村長の基本的なお考えをお聞きしたいというように思います。

次に、3点目の人間ドック事業実施年齢の引き上げについてでございます。

この事業は、病気になる原因の早期発見、それから早期治療により、長寿命化に役立っている事業で、多くの人たちが恩恵を受けているところでございます。

本年度も20人分が予算化されておりまして、費用的には総額約4万円のところを自己負担は約8千円の2割ぐらいを負担すると、非常に利用されやすくなっている事業だと思っております。

対象年齢は40歳から5年おきに60歳までと現在なっておるわけでございますが、65歳まで引き上げられたらどうかと思っておりますが、村長のお考えをお聞きしたいと思います。

その理由といたしまして、現在死因の1/3を占めるのがガンでございます。そのガンのこの構成比が一番ピークを迎えるのが男性は65から69歳、またこういった層が約5割の人たちがガンで死なれている。女性は50歳から54歳で、実に55%こういうのを占める、そういう数値となっているというようにそういう数値があります。

早期発見することによりまして、高額医療費を防げますし、また年金満額受給年齢が段階的に引き上げられて、最終的には65歳になる、そういうこともありますし、何よりもその村で支援している年齢が65歳であることによって、検診を受け健康でなければならない、こういうインセンティブが大きく作用すると思っております。

私も本年、脳ドックの方を初めて利用させていただきました。どうしようかと考え、もしこういう制度がなかったなら私も多分行かなかったと思っております。この費用的な面もありますけれども、事業があるということで行きやすくなっているという面が非常に大きなところでございます。検討を願うものであります。

以上をもちまして、質問を終了させていただきます。

議長（村松 積） 伊藤村長、答弁願います。伊藤村長。

村長（伊藤 喜平） 金田議員の質問にお答えいたします。

予算執行状況、その他については、今のお話のとおりでございますので、割愛させてい

ただきます。

予算規模についても割愛させていただきます。

私は1つ今回非常に考えさせる問題がありました。その地域が健全であるかないかということになると、自主財源がどのくらいあるか、財政力指数がいくつであるかということでございますけれども、下條村は0.23、0.22いくつから0.23になったわけでございます。

ところが今までその大企業に頼っておるところは、都市でも特に東京都あたりは人口がずんずん入ってくるわけでございますので、企業の収益もあるんですけども、基本的には個人住民税だとか、それから固定資産税、これはもうほとんど不況であっても何でも変わらなく、コンスタントにある部分は入ってくるわけでございますけれども、例えばこの前テレビに出ておりましたけれども、田原市なんかも出ておりました。今、豊田市よりはトヨタの拠点になってしまっておるわけでございますけれども、その税収の大半が70何%か80%自体がトヨタからいただいておる税金でございます。

そうすると税制力指数はものすごく高くなり、交付税も不交付団体であり、そうするとどういうカウントされるかということ、財政力指数が非常に高いということ。依存体質ではないよと、こういうふうには今までは評価されておったわけでございますけれども、今度トヨタ自動車がああいう状態になるとがたがたが減ってしまうわけでございます。そうすると、皆さん方でも半分くらいしか分かんと思いますけれども、企業は前の年に例えば100億利益があったということになると、その100億を基準として50%を納めてしまうわけでございます。そうするとそれについても使い切っちゃってしまうということでございますけれども、それは精算すると返さなければいけない。

それから歳入は、言うなれば相当減らされてくるということになると、あれは自主財源でなく、企業依存財源というふうな名前にしておかないと、これから本当に大変な時代になると金持ちも大変だなと。刈谷市もそうでございますけれども、そういう時代が来た。

これが100年に1度の経済恐慌ということでございまして、いろいろ考えさせていただくところがありました。

私どもは、もう常に低空飛行を重ねておるわけございまして、その中でそんなに大きな税収見込みというのは今のところは予定しておりませんが、これから何が出てく

るか分からないということで、より定めておると同時に、そのための基金も潤沢にあるわけでございますので、適意にまたやっているということでございます。

県も193億円も見込み違いして大変でございます。そうして基金を使えばいいんですけども、基金が230億円くらいしかないということ。それに使っちゃうともうどうしようもないということで、今年度は基金を使わなくて県債先送り。それで来年度の予算は基金をあてにしながらまた組むということで、苦しいやりくりをしております。これが現実であろうかと思えます。

そんなことで大変ご苦労をなされておると思いますが、現実というのはそういうもんであるということをおんにしたいと思えます。

それから里山整備のことにつきましては、これ森林税森林交付税ということで、今度新たに始めるわけでございます。

今、森林組合とこの結託してというんですけれども、森林組合はもう全然やる人夫もないということ。それで高齢化しちゃってちょっとかしいだような土地はもう全然駄目。グラウンド辺の草刈りが精一杯でございますけれども、私どもは今度シルバー人材センター、これを広域で入れるようにして、あそこにはすばらしい人がおります。人材が抱負でございますので、そこから最初にもうプロジェクトチーム組むようにということで指示をさせていただきます。

それから国道筋もそうでございますけれども、あれ全部村の費用でやりました。国道関係については、これは県がやるのが当然でございますけれども、県も金がないと。ないない、やれやれなんていったってしょうがないから、村である程度の金も出しております。

今度阿知原境、堀尾君の前の辺を堀尾君も相当協力してくれると思えますので、あれの竹やぶを徹底して切ってしまうんじゃないかということになると、非常にすっきりすると思えます。

この前のA町の町長が言っておりました。「下條ばっか整備の金を取ってきてどえれもんじゃねえ」なんて言って、ちょっと酔った時に嫌み言ったもんで、「あんなものは全部村がやっておるんだ」といって言いましたけれども、無い袖は振れないということは言っちゃおらないわけございまして、あれやってみて本当にすっきりして良かったなど。3年もすればまた元へ戻るわけでございますので、常に「下條村へ入ったらすっきりしたな」

というふうに言われるようにまたやっていくつもりでございます。

人間ドックの問題については、係の方から答弁をさせますので、ご理解いただきたいと思えます。

議長（村松 積） 人間ドックについては福祉課長。宮島福祉課長、答弁願います。

福祉課長（宮島 俊明） それでは人間ドックにつきまして、答弁させていただきます。

ご承知のとおり、今年の4月から医療改革制度が始まりまして、今まで検診については地域保健ということで、各市町村が責任持ってやっておったわけでございますが、これが各保険者が責任を持って行うという制度になったことについては既に皆様ご承知のとおりでございます。

そういうことで、19年度までは地域保健の中で人間ドックにつきましては国保に限らず社会保険に限らず40歳から5歳間隔で60歳までの間隔でやっております。

今年はそういうことで医療改革に伴いまして、国保の事業として20年度は特定健診の中の位置付けということで、人間ドックもその中の1つという中で、今までの5歳間隔を踏襲しながら、今年1年移行期でございますので、やったわけでございますが、20名募集したところ、実際には10名ということでちょっと少なかったわけでございますので、来年はこの枠を取っ払いまして、40歳から65歳までの国保の方であれば受けられる事業にしていきたい。これも予算の範囲内で当面20名程度ということになるかと思っておりますが、そういう形を持っていきたいと思っております。

なお、この人間ドックにつきまして、阿南町だとか飯田市におきまして、国保の事業から外して自己負担で全部全額自己負担でやってもらうというような方向にはございますが、いずれにしても、下條村としては特定健診の中の1つの位置付けという中で、今後もそういう形で進めてまいりたいと思えます。

以上です。

議長（村松 積） 3番、金田憲治君。

3番（金田 憲治） 里山整備の関係なんですけど、今答弁の中でなかなか森林組合の人数少ない。本当に確かにこれ自主的に動けるかなと本当にこういう心配をすところなんですけど、せつかくいい制度だもんですから、何とか私どももそういうものに支援ができればやっていくと。まとめるとかそういうようなものをぜひひとつやって、そういうようなそういう

風土づくりというんでしょうか、そういうものをしていただければなと思う。その先頭にたってやっていただければ、私どもも十分動いてまいりたいというように思います。

そんなところで何とかその区だとか、またはそういった所有者だとか、そういったところに十分またPRをぜひひとつしていただいて、これが進むような事業であっていただきたいと思うんですが、お願いいたします。

議長（村松 積） 村長。

村長（伊藤 喜平） そのとおりでございます、まず里山整備、基本は誰がやるかという受益者が考えなければいけないということでございますけれども、それともう1つは大量にまとまらなければいけないという問題でございます。

そうしたまとまった地域に対して、できたから人材を確保して伐採やるんだぞと、これでは遅いわけでございますので、私どもは4～5カ所も既にできあがっておりますけれども、3カ所、そういうふうにして今既に作業を進めております。

最悪の場合は、その地権者にも出てもらってもいいんですが、そんなことでまたご理解いただきたいと思っておりますけれども、ちょっと補足、課長の方からやっていただく。

議長（村松 積） 宮島振興課長。

振興課長（宮島 栄一） それでは補足になるか分かりませんが、今の状況だけちょっとお伝えを申し上げておきたいんですが、森林税ということで下條にも92万円くらいの税金、納税をしたということで、ぜひそれ以上の分を見返りをいただきたいなというのが本音でございますが、今具体的に動いているのは一応3カ所ということでございます。入野地区とそれから金田さんの関係の北又。それから昨日も説明会したんですが、阿知原ということで、これにつきましては係の方で特にこの辺がどうかと。例えばちょっと松くいがないとか、そういうところをピックアップして、今3カ所という設定をしてあります。

ですが、これ内容的には非常に9割補助とあと村でかさ上げがあるということで、ほとんど個人負担がないという状況でありますので、ぜひこれを利用していただいて、森林税の納入に見返る事業として非常にいいかなと、そんなふうになっております。

それで今後につきましては、いま今年から始まったということで、ちょっとまだ具体的な計画はなかったんですが、おかげさまに3カ所できましたので、今後あと4年間あるわけなんです、それにつきましては今考えているのは地区別に説明会をもちながら賛成い

ただける、まとまれる地区があればだんだん随時進めていくと。多分一遍にじゃあ下條村  
全域やるかというわけにはまいらないと思いますので、そんな形で今後取り組んでいき  
たいとは思っております。

以上であります。

議長（村松 積） 3番、金田憲治君、再質問。